

令和5年度 宮崎市介護人材実態調査 結果概要

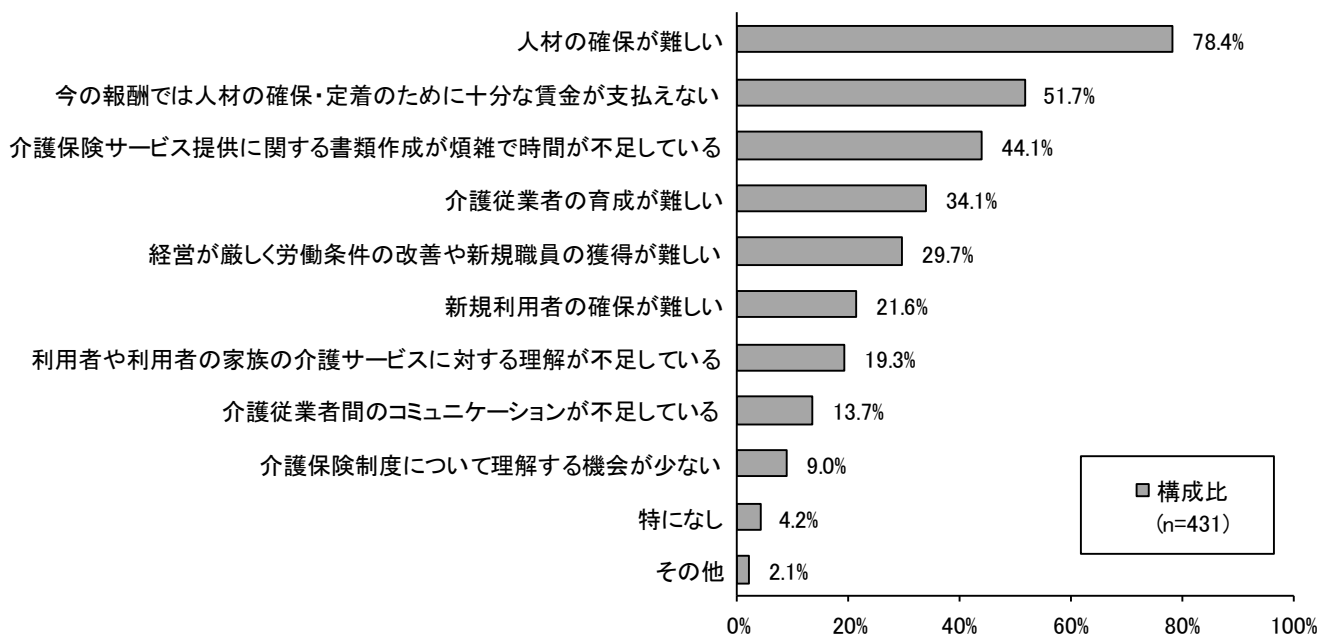
- 調査期間：令和5年5月10日～5月31日
- 調査対象者：宮崎市内に所在する介護サービス事業所(985事業所)(回収数431、回答率43.8%)
- 調査方法：発送は郵送方式。回答はウェブ方式。

①事業所(施設)の介護保険サービス種類

介護保険サービス種類	回答数	構成比 (n=431)	サービス種別	回答数	構成比 (n=431)
訪問介護	86	20.0%	訪問系・通所系サービス	280	65.0%
訪問入浴介護	2	0.5%			
訪問看護	38	8.8%			
訪問リハビリテーション	14	3.2%			
通所介護	68	15.8%			
通所リハビリテーション	17	3.9%			
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	4	0.9%			
夜間対応型訪問介護	0	0.0%			
地域密着型通所介護	31	7.2%			
認知症対応型通所介護	4	0.9%			
小規模多機能型居宅介護	12	2.8%			
看護小規模多機能型居宅介護	4	0.9%			
短期入所生活介護	6	1.4%			
特定施設入居者生活介護	14	3.2%			
認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	35	8.1%			
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	1	0.2%			
介護老人福祉施設	11	2.6%			
介護老人保健施設	7	1.6%			
介護療養型医療施設	0	0.0%			
介護医療院	2	0.5%	居宅介護支援事業所	72	16.7%
居宅介護支援事業所	72	16.7%			
無回答	3	0.7%	無回答	3	0.7%
合計	431	100.0%	合計	431	100.0%

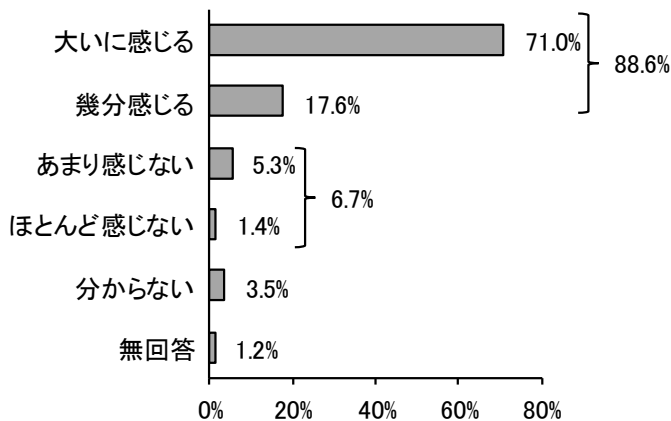
②介護保険サービスを運営する上での問題点

全体では、「人材の確保が難しい」の割合が最も高くなっています。次いで「今の報酬では人材の確保・定着のために十分な賃金が支払えない」、「介護保険サービス提供に関する書類作成が煩雑で時間が不足している」、「介護従業者の育成が難しい」などが続いています。

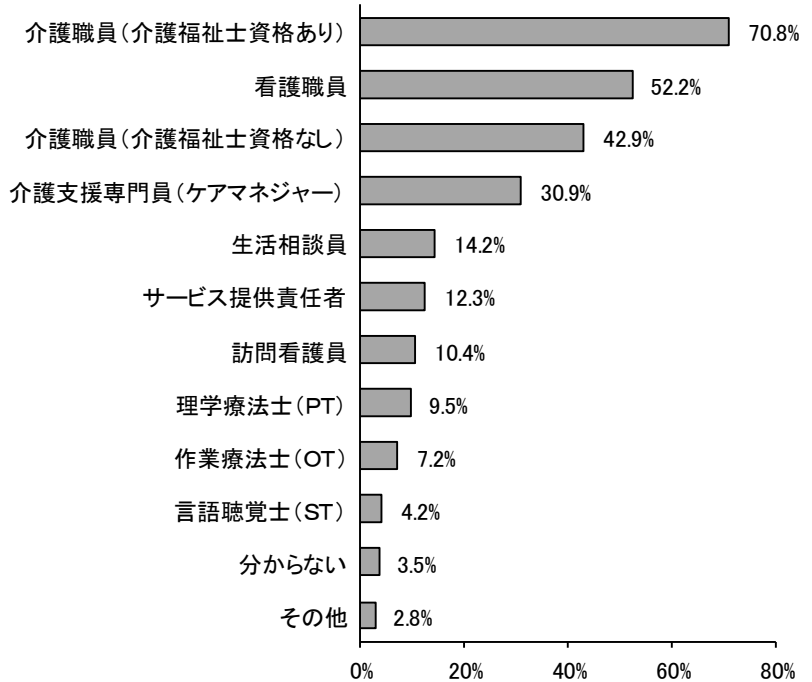


③介護人材の確保

介護人材の確保について、9割近くの事業所が、近年3年間で、職員の確保について難しくなっていると感じています。

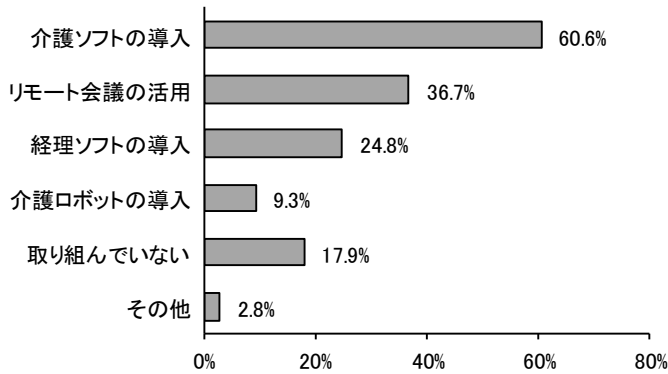


職員の確保が難しいと感じる職種として、「介護職員（介護福祉士資格あり）」が最も多く、次いで「看護職員」、「介護職員（介護福祉士資格なし）」などが続いています。



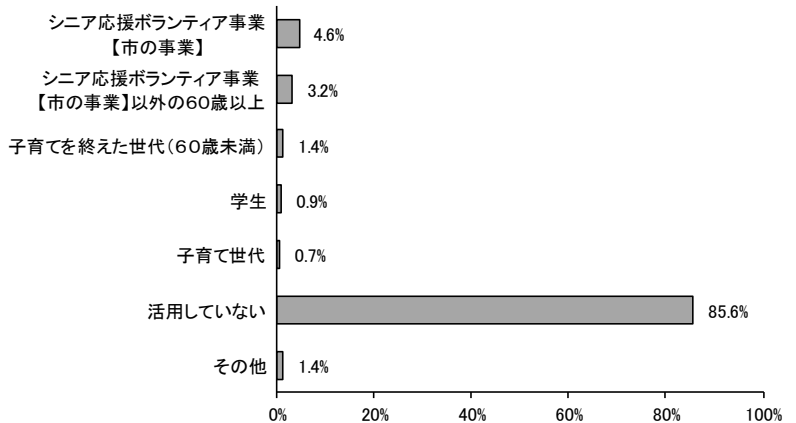
④ICT・介護ロボットの活用

「介護ソフトの導入」が最も多く、次いで「リモート会議の活用」、「経理ソフトの導入」などが続いています。



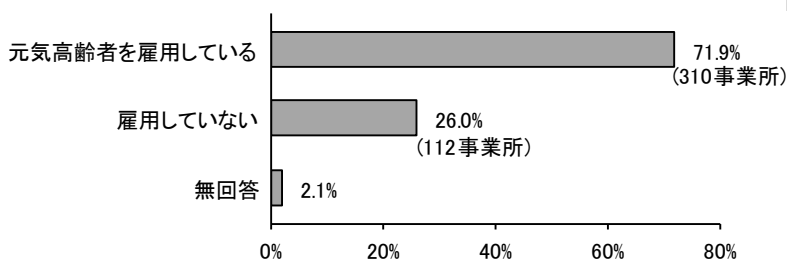
⑤ボランティアの活用

「シニア応援ボランティア事業【市の事業】」によるボランティア受入が最も多い結果となりました。



⑥元気高齢者の雇用

7割以上の事業所が、元気高齢者（60歳以上）を雇用しています。



⑦外国人労働者の雇用

「特定技能1号」が最も多く、次いで「技能実習生」、「EPA（経済連携協定）による受入」などが続いています。

